

「自然まるかじり体験塾」バターづくり体験

荒川区青少年育成地区委員会連絡協議会

令和2年度の「第34回自然まるかじり体験塾」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となりました。

その代替イベントとして、令和2年7月30日（木）に西日暮里二丁目ひろば館（定員10名）、11月25日（水）に熊野前ひろば館（定員20名）にて「バターづくり体験」を実施しました。

参加してくれた子どもたちはノンホモ牛乳の入ったペットボトルを約30分間振り続け、バターづくりをしました。子どもたち一人一人が一生懸命振り続けてできたバターを見た時の嬉しそうな表情がとても印象的でした。今後も、「あらかわの心」5つの取り組みの一つ、「体験」の場を提供することを通じて、青少年健全育成に努めていきたいと思ひます。



牛乳を振ってできたバターを取り出している様子



バターづくり会場の様子



YouTube配信動画
(荒川区公式チャンネル)
「自然まるかじり体験塾の紹介&バターを作る」
動画視聴用QRコード

クイズ・アンケート

クイズとアンケート両方にお答えください。正解者の中から30名の方に「あらかわの心」オリジナルエコバックをプレゼント致します。郵送かメールでご応募ください。

● 郵送の場合

はがきに、住所、氏名、電話番号、クイズの答えとアンケートをご記入の上、下記までお送りください。

〒116-8501
東京都荒川区荒川2-2-3
荒川区子ども家庭部児童青少年課内
あらかわの心ニュース
「クイズ/アンケート」係

● メールの場合

メールの件名を下記のようにして、住所、氏名、電話番号、クイズの答え

とアンケートをご記入の上、下記までお送りください。

●メール件名 あらかわの心
「クイズ/アンケート」係
●Eメール arakoko@city.arakawa.tokyo.jp

● 締め切り

令和3年6月15日。当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

なお、いただいたご意見等は、ニュース等の広報誌でご紹介させていただくことがありますので、ご了承ください。

クイズ

〇〇の中に入る言葉は何でしょう？
「あらかわの心」推進運動は「あいさつ、きまり、思いやり、〇〇、見守り」という<心をつなぐ5つの取り組み>を実践しています。

アンケート

- ① このニュースはどこで手に入れましたか。
- ② もっとも興味・関心をもった記事は何ですか。
- ③ その他、ご意見・ご感想等がありましたら、お願いします。



オリジナルエコバック

第30号 令和3年3月1日発行

発行 「あらかわの心」推進運動区民委員会事務局

〒116-8501 荒川区荒川2-2-3 (荒川区子ども家庭部児童青少年課内)
TEL.03-3802-3111(内線3833) FAX.03-3802-3174

<Eメール> arakoko@city.arakawa.tokyo.jp

<ホームページ>

右記QRコードから、「あらかわの心」推進運動のホームページにとぶことができます。



「あらかわの心」ニュース



「あらかわの心」推進運動
シンボルマーク

今号では、参加団体の活動報告を中心にお届けします。どの団体も感染症対策を徹底し、工夫をこらして活動している様子をお伝えします。



あらかわ
©荒川区2010#(2-0019) あらみい
©荒川区2012#(2-0019)

第30号

令和3年
3月1日発行

わくわくまちあるきたんけん隊を終えて

青少年育成南千住地区委員会育成部長
町田 高

令和2年11月15日に毎年恒例の青少年育成南千住地区委員会主催「わくわくまちあるきたんけん隊」が開催されました。

今年度は地域のイベント中止が相次ぐ中、子どもたちに楽しみを与えるイベントを行いたいとの思いから、越村桂子会長の英断により、規模を縮小した上で実施することを決定しました。



中学生によるクイズ出題

当日は、小学生13名が4つのグループに分かれ南千住の史跡を巡りました。また、今回は新しい企画として、令和2年4月にリニューアルオープンした「荒川総合スポーツセンター」見学会とエアライフルの射撃体験を行いました。今回は、学校の試験中にも関わらず9名の中学生ボランティアが参加して下さり、無事にイベントを終えることが出来ました。お手伝いして下さった地区委員会、警察の皆様にご感謝を申し上げます。

最後になりましたが、一日も早く普段通りの生活に戻り、子どもたちのイベントを行えるよう心から願っています。

待望の活動再開！万全のコロナ対策で街頭広報

荒川消防少年団団長 寺島 稔

荒川消防少年団では、地域の小学生から高校生までが防火防災のリーダーを目指して学んでいますが、今年度は感染症対策により春からの活動を休止してきました。

休止中には月1回の通信学習で防火防災の学びを深めてきましたが、この度、秋の火災予防運動に合わせた街かどの広報活動（令和2年11月15日開催）で待望の活動再開となりました。

久しぶりに会った団員たちは、自然とソーシャルディスタンスを保って整列するなど、一回り成長した姿が見られました。1時間という短い時間でしたが、秋晴れの下、東京消防庁の公式マスコット「キュータくん」と共に都電荒川線の三ノ輪橋停留場やジョイフル三ノ輪商店街で広報活動を行いました。子どもたちの元気な笑顔につられてチラシを手取る方が多く、新しい日常でも消防少年団としてさらに地域に貢献していこうと誓った一日でした。



キュータくんとともに火災予防を呼びかけ

『六瑞花火大会』

六瑞パパの会メンバー 箕輪 佳能

令和2年10月2日午後5時から約2時間、第六瑞光小学校校庭で六瑞パパの会主催の花火大会を開催しました。

今年度はあらゆる行事が中止となってしまいましたが、「子どもたちの為に何かしたい!」という思いから花火大会を決行しました。

校長先生をはじめ先生方、PTAの皆様の協力のもと、5,6年生を中心に沢山の生徒、保護者の方に参加していただきました。まず、手持ち花火からスタートし、途中、ナイアガラの滝があり、その後、打ち上げ花火が上がりました。空高く舞い上がった花火は、



みんな仲良く手持ち花火

遠くに住む方にも見えていたそうです。子どもたちの笑顔、歓声、大喜びの姿を見て本当に嬉しかったです。ラムネも美味しかったね!

ちなみに、六瑞パパの会では子どもたちの笑顔のためにイベントを企画運営、学校行事やPTAのお手伝いをしています。現在、メンバーは10人です。パパ同士の交流を深め楽しく活動しております。今年度は草むしり、登校時の見守り、餅つき大会などを行いました。今後も楽しく頑張ります。六瑞はみんな仲良く、大好きです!



迫力満点! 打ち上げ花火

心に残る活動を! 子ども会大会

荒川区少年団体指導者連絡会(荒少連) 田中 義久

荒川区少年団体指導者連絡会(通称「荒少連」)は、昭和40年7月に発足し、区内の子どもたちが携わっている会やクラブなどの指導者により組織されています。普段はできない体験を通して、子どもたちの豊かな心の成長につながればと思います。活動しています。

令和2年11月29日に、荒少連、本年度初めての行事、「あらかわ子ども会大会」を実施しました。厳しい状況の中でしたが、密を作らないよう注意し、火起こしと非常時の炊き出し体験をしました。「サバイバル飯にチャレンジ!」では、ポリ袋を使ってご飯を炊きました。今回は、1人用で0.5合(茶碗一杯程度)にしました。そこに様々なトッピング(出汁の元・昆布・梅干・ふりかけ・焼鳥など)を選んで入れました。子ども達は、自らが作ったオリジナルご飯を楽しそうに食べていました。

また、マッチとマグネシウムマッチを使用

した火起こしを体験し、火の大切さと同時に恐ろしさを学ぶことができました。

最後に、優良青少年表彰の表彰式があり、個人の部は、天王太鼓つくも会 石橋忠様、団体の部は、尾久交通少年団様が受賞しました。おめでとうございます。

今回のあらかわ子ども会大会も、子どもたちの学びを深めるきっかけになったと思います。



集合写真

コロナに負けるな! 今できること

公益社団法人東京青年会議所(JCI東京)
荒川区委員会 渡辺 力也

(公社)東京青年会議所荒川区委員会は、令和2年度は「奮え荒川」のスローガンのもと、「明るい豊かな社会の実現」を目的として、地域の社会課題の抽出、解決に向けて取り組む25歳から40歳までの16名で活動しております。

本年度は、他の団体と連名で、消毒液、防護服、フェイスシールドなどの新型コロナウイルス感染症対策物資を荒川区に寄附をさせていただきました。

また、5月に「コロナに負けるな! 荒川テイクアウト」、11月に「荒川区長選挙ネット討論会」という2つの地区事業を開催しました。

「コロナに負けるな! 荒川テイクアウト」では、セミナー開催やテイクアウトマップを新聞折込みチラシで区民に配布するなど、新型コロナウイルス感染症の影響で苦しい状況にある区

内飲食店を応援する事業を行いました。

「荒川区長選挙ネット討論会」では、政策で候補者選択をすることを目的として、荒川区長選挙の立候補者に討論をしていただきました。討論の様子は、ニコニコ生放送を通じて荒川区民に届けられ、視聴者数は5,000名を超えました。そして、討論会を視聴したことで候補者の人柄や政策についてよく理解できたというご意見を多数いただきました。

なお、(公社)東京青年会議所荒川区委員会では、私たちと一緒に活動する仲間を募集しています。興味のある方は、ぜひご参加下さい。



西川区長より感謝状の贈呈

🎃👻 コロナ禍でも「ソーシャルハロウィン」🦇

レインボー子ども会

今回は、「ソーシャルハロウィン」に参加して下さった育成者の方(大木さん)に寄稿していただきました。

今年度は、世間が新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中、レインボー子ども会でも様々なイベントが中止となりました。私自身幼い頃レインボー子ども会に入っていた時は、季節ごとに様々なイベントがあり、とても楽しかったことを覚えています。今年度は様々なイベントが中止となり、子どもたちのために何かできないかと考えていたところ、レインボー子ども会が「ソーシャルハロウィン」を行うことを聞き、参加させていただきました。



参加ご家族と育成者

ウィンとなってしまいましたが、ソーシャルディスタンスがある中でも、企画者と子どもたちがハロウィン衣装を身にまとい、子どもたちとの距離はありましたが楽しく充実した時間を過ごすことができました。

今、私は、今までのレインボー子ども会での経験もあり、大学で保育士になる勉強をしています。今後、保育士になる上で、これまでの経験はとても役立つと思います。



育成者・スタッフ集合写真

新型コロナウイルス感染症防止のため、このようなイベントをたくさん行うことは難しいかもしれませんが、例えばオンラインを活用し、楽しめるイベントを考えていきたいです。